

(受理番号) 5-15	(受理年月日) 令和5年8月23日
<p>件名</p> <p>要旨</p>	<p>陳 情</p>
	<p>宿題の原則廃止について</p> <p>宿題廃止にし、自ら学ぶ習慣をつくることができるようにしてほしい。</p> <p>人口や経済が拡大していた時期は、教育では従順さや忍耐強さなどが重視されたが、少子高齢化が進み、経済も縮小する時代となり、新しい価値を生み出せる人材が必要になっている。</p> <p>子どもは生まれたときから主体性を持っており、宿題がなければ、子どもは自分の好きなことに時間を使うことができ、主体性を発揮できる。</p> <p>学校の教員の長時間労働も課題になっている。</p> <p>宿題の廃止により、教員の労働時間の削減につながり、子どもにより目をかけることができる。</p> <p>9月1日は夏休み明けに宿題を出すのを苦にして不登校や自殺をする子どもがいる。</p> <p>宿題は子どものためになっているのか、子どもたちに判断させるべく、原則廃止にし、放課後まで学習を強いることはやめて、家庭教育においては保護者や子どもの判断に任せるようにしてほしい。</p> <p>以上、宿題の原則廃止を陳情する。</p>